

あらぐさ

共立高等看護学院第36期生戴帽式

思いを込めて創り上げた戴帽式



36期生のみなさん、戴帽式おめでとうございます。
いつもお中でじいじやお母さんと一緒に過ごした御来賓の皆様、
御家族の皆様ありがとうございます。

われて36期生の皆さんのが入學してはや二カ月が過ぎ
ました。多くのことを学び、病院実習も経験し、学校
生活にも慣れ、ようやく看護学生になってしまったかも知
た。全員直接では一様に「実習は楽しかった」と語れ
てくれました。頗る嬉しい限りです。しかし、一方、中
弛みが出来てくるのもこの時期です。そんな中で今日の
この戴帽式を迎えるもよかったです。クラスの仲間を一層深く理
解し、看護師になりたい決意を固めあつ大切な行事
です。

当学院は今日この日を迎えるまでの過程を大事に
しています。長い時間ヒュンセルギーを使い、実行委員
会を中心とした自分で創り上げる戴帽式であることは
大きな意義があります。2年生、3年生も先輩として
皆さんの見守り、貴重な助言をしてくれました。そん
な戴帽式でおから参加者に感動を呼び、36期生にとって
は過難い思いを出しながらじとじょひ。

看護の道はまだまだこれからです。歩ひながら、まだ
まだ歩いて、歩ひ歩ひは学校生活をおこなうアリバイ
アリバイおこしてや多くの難関、試練が待ち構えています。
乗り越えていくのもじょひ。乗り越えての成長です。私
達教職員一同も皆さんと共に歩み、精一杯支えながら
歩んでいく覚悟です。36期生のこれから前途洋々な
未来を祈願してお祝いの挨拶でした。おめで
たさい。

共立高等看護学院

上嶋 雄輔

戴帽式を終えて 担任 鈴木美緒

11月15日(土)に共立高等看護学院36期生33名の戴帽式が行われました。臨床現場でのキャップ廃止が進む中、近年では戴帽式を実施しない看護学校もあります。しかし、本校では多くの時間を戴帽式の準備に費やし、学生が主体となり戴帽式を作つ上げています。戴帽式の準備ではDGMや田子、戴帽・キャンドルのルーテ、誓うの言葉など、様々なことをクリアで議論を重ね、クラスで一つを決定していきます。今まで「患者として議論をされない」経験をしてしまった状況でした。そのため、「自分の意見を述べられない」と・他者の意見を受け入れられない」「一人一人が心遣いをし、クラスは39名が安心できる場所にならない」と、以上の2点も学んでやることを希望していました。

準備を行つて徐々に議論の参加の方法を覚り、自分以外の考え方、捉え方の違いにも気付けていました。そして同時に患者を尊重するのと体験を通して学ぶことができる、3名それぞれが看護師になりたために何をし體わる上で必要な技術を身につけることができました。戴帽式10日前から朝・昼・夕に集まり、係りやクラス・実行委員で集まつたり、合図練習を行つたり、歩き方等の練習など時間を使つままで行つてきました。戴帽式の前日正式にわって作った冊子がやつと完成し、当日の式典前まで合唱などの練習を行つていきました。当初は間違ひのか心配もしましたが、誰一人諦めないとなく、粘り強く準備に取り組むことができ、36期生の個性がつまった感動の戴帽式を行へ、参加された父母の方々かいば

「感動しました」「今口を勵みに頑張つて欲しい」と様々な感想をこだわらされました。

これからぜひ、年明けにある全国模試や期末テスト、臨地実習に向か、看護学生として新たな一步を踏み出したいと願っています。そのためのサポートを全力で行っていきたいと思っています。



与薬の校内実習風景



家庭での家族に対するサポート、実

習の場では臨床の臨むとの温かい声かけなど、それなり場で支援していくだけじゃなくて学生のがある感じ、感謝しているのです。年明けも、早々に実習再開とななります。体調を崩しやすい時期ではありますですが、学生一人一人が自らの課題に向き合って、大きく成長していくの実習終了を迎えたのを見た期待しています。寒い冬に負けずとも頑張れ、35期!!

実習中 担任 中込英利香

実習の前半が終りました。今回の実習では、内科や外科、小児病棟、障がい児保育園、生命の誕生に立ち会う母性など様々な経験をしています。手術した患者さんが元気に退院したこと、生命の誕生に立ち会えた感動を生き生きとした語る先生、闘病中の患者さんとの向き合いもまた、手術した患者さんの個々が喜んでいたり悲んでいたりの表情に取り組んでいた様子が伺えます。しかし、実際に樂しげな事ばかりではありません。これまでの実習ひとつも高くレベルの看護実践を求めるため、実習をしっかりと暮す時間を惜しみでサポートして取組む先生が多かったと感われます。

この間では臨床の臨むとの温かい声かけなど、それなり場で支援していくだけじゃなくて学生のがある感じ、感謝しているのです。年明けも、早々に実習再開とななります。体調を崩しやすい時期ではありますですが、学生一人一人が自らの課題に向き合って、大きく成長していくの実習終了を迎えたのを見た期待しています。寒い冬に負けずとも頑張れ、35期!!

卒研発表を終えて 担任 塩澤詩穂



12月から12月末までの約3か月間、34期生は学校生活最後の実習に取り組み、総じてひとつの総合実習を行いました！



終えました。じつは患者ひとりで良い看護を提供できるのか、看護師だけでなく多職種や家族にも積極的にアプローチしながら看護を展開していく姿は、これまでの実績や授業や仲間との関わった感じの多くの経験を統合し大きな成長を感じするものでした。

それらの学びは、これまで積み重ねてきた実習経験から構築された看護観を軸に、総合実習のレポートしてきました。去る12月16・17日の2日間に渡り、山梨県立文書館にて卒業研究発表会を行い、ご父兄や指導者の皆さまにも学生の学びを聞いていただけた機会を持つことができました。

発表会では

発表会では活発な質疑応答がなされ、より自分の看護観を深めのひと歩に大きな達成感を得、今後臨床で働くにあたって大きな自信になつたと思います。こじまで頑張りきった34期生のみなさん、本当にお疲れ様でしたーそして、ご協力いただいた全ての皆さんに心から御礼申し上げます。

さて、卒研が終了したところですが、今度はよいよ卒業の国家試験対策の日々がやってきます。卒研にて立派に自分の大切にしたい看護を語るみなが、看護師にならない訳にはいかないと強く感じました。国試まで約2カ月です。わがことじを全てやり戻していく進歩で看護師になる夢を実現させていきましょう！

山梨看護学会参加報告

12月13日(土)、山梨県看護協会看護教育研修センターにおいて、平成26年度山梨看護学会が開催されました。今年は「看護研究」授業の一環として、本校の2年生45名が参加しました。

会場は朝から山梨県内の看護職600名以上で埋め尽くされ、学生達は緊張した様子でした。しかし午前中の一般演題発表が始まると、「患者さんの意欲低下にどのように関わったのか」「チームの連携はどのように行われたのか」等積極的に質問をして、会場の雰囲気を盛り上げていました。

午後は、「私の看護を語る」という企画と、ミニレクチャー「かならずできる文献検索」、さらに、大阪大学の村上康彦先生による特別講演「看護師の実践、看護師の語り」が行われ、真剣な表情で講義を聴いていました。

学会後に提出された学生の参加報告書には、「こんなに多くの看護師さんたちが、日常の疑問を解決するために研究していることを知りました。こうやって看護は発展していくのだな、と思いました。」「看護は、学生の間だけではなく、社会に出て勉強の積み重ねが必要なのだと再認識できた。学生のうちから、常に科学的に考える習慣を身につけておきたい。」「実習にすぐに活かせることがたくさんあった。学会に参加してよかった。」といった感想が書かれていました。また、学会に参加した看護師から、「共立の学生さんたちの看護を学ぶ姿勢に感心させられました。」と評されたことも報告しておきます。

(授業者：押領司 民)



山梨県看護協会看護教育研修センター
(甲府市東光寺)

『臨床看護の本質-患者援助の技術』

E. ウィーデンバック著 外口・池田訳 現代社 1,944 円
人が何を求めているか認識できる手法と客観的に振り返る
作業（プロセスレコーダー）について述べ、立ち止まって
考えることの大切さを訴える。私が看護教員になった頃、
改めて看護観を構築する上で大きな示唆を受けた。看護を
志す若い人達にじっくり読んでもらいたい。（右側写真）

『子供の眼・子どもの心 詩とカメラの学級ドキュメント 一年一組 せんせいあのね』

鹿島和夫・灰谷健次郎

理論社 1980 年度 940 円（当時）

小学一年生が心のままに綴る言葉が詩となる。立場が違うと見えるものも違う！ どうか、そう見えるのか！ とハッキリさせられる。子どもの視点が人間観を深める。感動と笑いの中で対象理解の視点が養われる良書。（丸山）



*本校図書室にあります

アーネスト・クーパーバック著

改 第二版 臨床看護の本質

患者援助の技術

Clinical Nursing : A Helping Art

外口 真子 訳
池田 明子



現代社

教員が選めるこの一冊

◇ 教職員参加の研究・研修活動 ◇

7月 研究授業案検討会

8月 看護学校協議会学会

民医連看護学校学術交流集会

看護研究学会-30回学術集会

山梨看護教育研究協議会研究授業

実習指導者研修会

日本看護学協議会教育研修会

9月 全日本民医連看護・介護活動研究交流集会

10月 日本看護学校協議会事務担当者会

主な予定

12/19~1/4

冬季休暇

12/25~27

スキー実習（体育選択科目）

1/5

始業

1/9

成人Ⅰ・Ⅱ、小児Ⅱ、母性実習開始（2年生）

2/12、13

前期一般入試

2/16~27

後期期末試験（1年生）

2/22

基礎Ⅱ実習（1年生）

2/26、27

後期期末試験（2年生）

3/6

卒業式

3/12

終業

3/13~

春季休暇

3/25 14時 第104回看護師国家試験合格発表

父母の会より

■1月下旬に3年生の国家試験学習を励ます日を設けます。3年生の役員さんに別途連絡をいたします。

- 経過 7/25(金) 2生3年生部会 役員会
- 11/15(金) 1年生戴帽式・学校と懇談
- 1/中旬 3年生励ます豚汁
- 2年生成人祝兼実習激励品贈呈
- 3/6(金) 卒業式 卒業記念品贈呈
- 第2回役員会

今年度会費(5千円)はお振込でも、学校事務課窓口のいずれ
でも可能です。

編集後記

今年ありがとうございました。来年もより地域に貢献する看護師養成のために奮闘します。御指導、御鞭撻の程、お願申し上げます。(M)



看護技術演習 3年生



アラカルト
9月～12月



卒業研究発表会
3年生



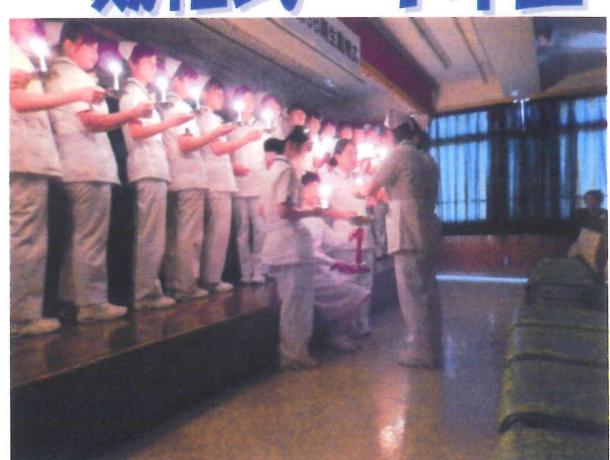
与薬校内実習
2年生



戴帽式 1年生



音楽の授業
ティサービスでの音乐会 1年生



原水爆禁止世界大会に参加して

36期 武井 紗香

今年8月4日から6日まで広島市内で開催された「原水爆禁止2014年世界大会—広島」に本校より学生自治会代表で一人の1年生が参加しました。御近所の子供さんと在校生の手による折り鶴を平和祈念公園に捧げました。御支援いただきました皆様にお礼を申し上げます。以下感想文です。

「今回原水爆禁止世界大会に参加して、一番に思つたことは戦争は終わっていないということだ。今も重い後遺症で苦しむ被爆者の方やその家族、戦争で家族を失つた方、心中にはその日の記憶が根強く残つていて、忘れるとは決してないということを知つた。

私は戦争も原爆も過去の遺物、遠い昔のこと、といふように思つていた。実際に広島の原爆ドームを見つて「本当に戦争があつたんだ」と当たり前のことを思つてしまつた。私は無関心すぎたし、無知なために知識もないままその惨禍を知り、驚かされた。もっと早く知るべきであつたし学習機会はあつたはずであつた。



今回参加することで自分がいかに戦争というものを見らずに育つた幸せな子供であつたか、死と遠い生活を送つていたか知ることができた。そして自分が看護学生として何を考えるべきか、を考え強く思つたことは「戦争を繰り返さないこと」である。医療従事者は患者の病気・怪我を治すために存在している。しかし、戦争が起ることで従軍看護師として負傷者の治療をすることになる。この負傷者は再び戦地に赴き、命を落とすかもしれない。戦争で死なせるために治療するのか、看護をするのか。まだ看護観すら見出せていないが「戦争で死なせるための看護」をすることはしたくない。原水爆禁止世界大会世界大会に参加して一番にそう思った



参加した武井さん（左）、熊谷さん（右）